

施策No.	政策名	快適な暮らしのまちづくり	主管課	生活環境課	主管課長名	
5-7	施策名	廃棄物の抑制と適切な処理	関係課	なし		

1. 施策の目的と成果把握

目的	施策の対象	対象指標名	単位	区分	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	
	ごみの発生が抑制され、適正な処理が行われている。	・市民 ・市内で発生した廃棄物(ごみ・し尿)	①桜川市人口	人	見込値	37,653	37,269	36,885	36,500	35,897
実績値					37,653	36,794				
②市内のごみ総排出量(事業所分を除く)			t	見込値	9,807	10,148	10,148	10,148	10,148	
				実績値	13,173	11,138				
③し尿処理量			t	見込値	14,154	14,058	13,964	13,868	13,772	
				実績値	13,434	15,021				
施策の意図		成果指標名	単位	区分	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	
			①1人1日当たりのごみ排出量	g	目標値	780.0	770.0	760.0	750.0	740.0
					実績値	638.0	666.0			
			②資源物比率(資源ごみ÷ごみ総排出量)	%	目標値	8.4	8.1	8.5	8.9	10.0
	実績値				5.9	7.0				
	③可燃ごみの搬入量		t	目標値	8,350.0	8,300.0	8,250.0	8,200.0	8,000.0	
				実績値	8,884.5	9,107.0				
	④不燃ごみの搬入量		t	目標値	389	389	376	363	350	
				実績値	366.2	350				
	⑤資源ごみの収集量		t	目標値	822	826	867	908	950	
				実績値	772	783				
成果指標設定の考え方	○ごみの発生が抑制されるのは、①「市民1人当たりのごみ排出量」が減れば、ゴミの減量化につながると考えた。 ○適正に処理が行われることについては、②資源物比率、③④可燃・不燃ごみの搬入量、⑤資源ごみの収集量で把握する。									
成果指標の把握方法及算定式等	○対象の桜川市人口は毎年10月1日現在の常住人口 ○対象の「市内のごみ総排出量」は、事業所から排出されたもの(事業系一般廃棄物)は除いている。 ○ごみの発生を抑制していく意図の経年変化を見るために、成果指標を1人1日当たりのごみの排出量(市内のごみ総排出量/計画人口)とした。 ○適正処理については、資源物比率を見ることで把握する。 ○可燃、不燃ごみの搬入量は環境センターへの搬入量 ※①桜川市人口以外は、前年度実績の数値となっている。									

2. 施策の成果水準とその背景・要因

1) 現状の成果水準と時系列比較(現状の水準は以前からみて成果は向上したのか、低下したのか、その要因は?)		
実績比較	<input type="checkbox"/> 成果がかなり向上した	<input checked="" type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば向上した
	<input type="checkbox"/> 成果がほとんど変わらない(横ばい状態)	<input type="checkbox"/> 成果がかなり低下した
背景・要因	<ul style="list-style-type: none"> ・1人1日当たりのごみ排出量は、令和4年度(令和3年度実績)が638.0g、令和5年度(令和4年度実績)が666.0gで、前年度と比べ28g増加し成果が低下している。 ・資源物比率は、令和4年度(令和3年度実績)が5.9%、令和5年度(令和4年度実績)が7.0%で1.1ポイント増加しており成果が向上している。 ・可燃ごみ搬入量は、令和4年度(令和3年度実績)が8,884.5t、令和5年度(令和4年度実績)は9,107tで、前年度と比べ222.5t増加しており成果が低下している。 ・不燃ごみ搬入量は、令和4年度(令和3年度実績)が366.2t、令和5年度(令和4年度実績)は350tで、前年度と比べ16.2t減少しており成果が向上している。 ・資源ごみの収集量は、令和4年度(令和3年度実績)が772t、令和5年度(令和4年度実績)が783tと、11t増加しており成果が向上している。 ・不燃ごみと資源ごみの搬入量、資源物比率の成果は向上しているが、可燃ごみの搬入量が大きく増加していることから、ごみ全体の排出量が増加している原因と思われる。 	
2) 成果目標の達成状況		
実績比較	<input type="checkbox"/> 目標値の全てを上回った	<input type="checkbox"/> 一部の成果指標で目標値を上回った
	<input checked="" type="checkbox"/> 一部の成果指標で目標値を下回った	<input type="checkbox"/> 目標値の全てを下回った
背景・要因	<ul style="list-style-type: none"> ・1人1日当たりのごみ排出量は、令和5年度の目標値770.0gに対し、666.0gで104.0g目標値を上回った。 ・資源物比率(資源ごみ÷ごみ総排出量)は、令和5年度の目標値8.1%に対し、7.0%で、1.1ポイント目標値を下回った。 ・可燃ごみ搬入量は、令和5年度の目標値8,300.0tに対し、9,107.0tで807t目標値を下回った。 ・不燃ごみ搬入量は、令和5年度の目標値389tに対し、350tで39t目標値を上回った。 ・資源ごみの収集量は、令和5年度の目標値826tに対し、783tで43t目標値を下回った。 成果目標の達成状況については、1人1日当たりのごみ排出量、不燃ごみ搬入量で目標値を上回ったが、他3つの項目で目標値を下回ったことが重視されることから「一部の成果指標で目標値を下回った」と評価した。	

3. 施策の成果実績に対するの総括と今後の課題・方針

施策の成果実績に対するの総括	今後の課題・方針
<ul style="list-style-type: none"> ・粗大ごみ処理処分事業について、布団・木製品と鉄類・廃プラ等で分けて行うことで、より多くの処分ができた。 ・資源ごみ分別収集事業について、市民一人ひとりが、資源ごみと可燃ごみの分別の意識が低いと思われる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後は、市民に向けた一般ごみと資源ごみの分別の周知として、令和5年度に刷新したごみカレンダーを活用していただき、資源ごみの分別を徹底する意識向上に繋がるよう強化する。 ・広報やイベント等を通じて積極的に啓発を行い、ごみ減量化を促すとともに、リサイクル製品を細かに分別する取組を展開する。